昭和三年二月十六日第三種郵便物認可（毎月一日一回發行）

聖書の眞理

第六十七號

五月號

主筆　江原萬里

罪なき者石を擲て　江原萬里
眞の個人主義　江原萬里
我等は我等以上の者　江原萬里
鎌倉講演　日本國の眞精神　齋藤宗次郎
イエス・キリスト　ダビデの子　森本慶三
棄教問答
柏木通信
津山基督教圖書館案内
身邊漫筆
就職戰術の先生　好川增輔

昭和八年(1933)五月一日發行

對一票を以て之を採擇しました。此の案に反對したのは我國だけ、シヤムが棄權しました外全世界の諸國の代表者は悉く此の勸告案の採擇に贊成したのであります。

此の勸告文によれば滿洲事變の勃發及びそれ以後の我國の行動は國際正義に反すると云ふのでありまして、一昨年九月十八日夜の事件及びそれ以後の我が國軍隊の行動は自衛のためでなくして侵略的行動であり、次で成立した滿洲國なるものは滿洲在住三千万人の自發的獨立運動でなくして、我が國の參謀本部の指金により、我國の文武官吏がやつた仕事だ。それ故支那が之に抗議するための排日を行ふことは少しも不當でなく、それこそ自衛的行動である。此の紛爭の全責任は一に日本に在る、故に日本は速かに兵を撤して滿洲鐵道地帶に歸へり、滿洲國は解消して、支那の主權の下に新に自治制度を布け。と云ふのが勸告文の趣意であります。實に我が國は全世界の諸國民から不正不義の國として公然刻印をおされたのであります。何たる侮辱でありますか。我等國民は之を聞いて默して居られますか。然るに殘念な事には諸新聞雜誌に何ら義憤らしい聲を聞きません。

此の屈辱を受けて我が國は面目上國際聯盟に留まることが出來なくなり、遂に三月廿七日脫退の通告を發し、且つ我が國の正義の觀念は世界の諸國のそれと異なり、東洋平和の手段も亦異なるものだと宣言しました。而して今では我が國民は世界諸國から除け者にされ、不義の制裁として經濟封鎖を受けはしないかと心配して居ます又大戰によつて得た南洋の委任統治領は今後どうなるかについて疑惑が生じて來ました。今後支那との間には永いこと恨の垣が出來ました。これ等に關連して大戰爭再來の噂も亦こゝかしこに聞こえて居ります。

內に經濟國難、政治國難、思想國難を控へ、國の基が動搖し始め、外には此の外交國難を以てして、國家の前途眞に憂慮に堪えないものがあります。リツトン卿は先日パリで、我が國の今の有樣は丁度世界大戰爭前の獨乙の有樣だと講演をして居ます。之が現下の所謂「非常時」であります。

國に信義がなければ滅ぶと云ひます。かかる時局に直

面して我等日本國民は一體何に據つて立ち得ますか。これこそは朝野を擧げて國の最大問題ではありませんか。我が國は國際聯盟に於て世界から不義だと刻印されましたのに對して、松岡全權は一時間半に亘つて堂々と歴史的大雄辯を振はれ、「日本の本當の腹、世界に對する日本の堂々たる宣言、日本の根本精神を宣揚された」と云はれて居ります。曰く

諸國は日本の態度を非難する、世界の輿論は寄つてたかつて日本を抑へやうとして居るが、其諸君の方が間違つて居る。ナザレのイエス、あれはどうだ。君等の最も尊敬するイエスはどうだ。あの時の輿論は寄つてたかつて彼を磔にしたが、後二千年、君等は彼の精神の前に魂の前に跪いて居るではないか。日本は今其のイエスの如く、世界の輿論に反對しても、正しいと認めて居る所を主張し、實行しつゝある。……日本の正義は滿洲を救ひ、極東を救ひ、世界を救はうとしつつあるのだ。日本の精神が寧ろ正しい。日本の正義が全世界を支配する時代が必らず來る。

之を聞いて佛蘭西のボンクールは『ベルサイユ會議に於けるクレマンソーの大演說に匹敵する演說であつた』と評したそうであります。又その云ふところをよしとする者も惡しとする者も悉く松岡氏の雄辯に魅せられたとの事であります。世界の人は松岡氏の中に日本の眞髓、『サムラヒ』を見たと云ひます。某國の外務大臣が新聞に寄書して

我々は日本に何かよいものがあるだらうと思つて居た。然るに此のジュネーブの臨時總會で日本のサムラヒが來て卒直に大膽に腹の底を割つて話をした。それで非常にはつきりした。

と云つて居る。日本はジュネーブに日本の眞髓である『サムラヒ』を送り、日本の正義、世界全體に誤解され乍ら遂に世界がその前に屈服しなければならない正義を闡明せしめたのであります。以上はジュネーブに於ける松岡全權の活動について、先日東京朝日新聞社で講演された現關東廳外事課長御厨信市氏のジュネーブ土產話によつたものであります。

然らば我が國のサムラヒをして闡明せしめた日本の正義なるものは何であつたか。私は御厨氏の講演を讀んで非常に失望しました。之ではとても世界の人をして、イエスの如くその正義の前に早晩跪かしめ、その正義は「滿洲を救ひ、極東を救ひ、全世界を支配する」とは考へられませんでした。御厨氏の說明によれば、松岡全權が全世界の前に釋明した日本の正義なるものは次のやうなものであります。

日本はあらゆる正當の權益を支那の態度によつて妨害され、喪失された。此のけしからぬ支那の頭を毆るのが何が惡い。吾々日本の家の爲に、生命の爲に、權益の爲に正當の立場に出たんだ。是がどうしていけないのだと云ふのが日本の立場であります。

と云ふのだそうです。然るにイエスの精神は遙に偉大でありました。

「目には目を、齒には齒を」と云へることあるを汝ら聞けり。されど我は汝らに告ぐ、惡しき者に抵抗ふな人もし汝の右の頰をうたば、左をも向けよ。なんぢを訟へて下衣をも取らんとする者には上衣をも取らせよ（マタイ傳五・三八―四〇）

世界の人類は此の大精神の前に跪いたのであります。然るに松岡全權の主張は「目には目を、齒には齒を」でありまして、全權がイエスの例を以て日本の主張を義しとしやうとしたのは、日本が如何に基督敎について無智であるかを告白したものであり、且つ益々心あるものゝ反感を喚起したであらうと思ひます。これでは世界の人が日本の行動、その正義を理解出來ないのは寧ろあたり前だと思ひます。四十二票對一票は當然ではないでしやうか。若しこれが『日本の本當の腹』であり、『日本の根本的精神』であつて、之を臆面なく世界に堂々と宣言したのであるならば、私は面目ないと思ひます。之では日本は世界に信義を失ひ、內は屹度社會道德が衰へ、遂に滅亡します。

諸君は我等の代表者である全權が、若し我等の道義的觀念はこんなものであると世界に宣言したのを聞いて、然り、その通りと云はれますか。全權はよく云つてくれ

た、我等はこんな崇い考をもつて居ると云つて、それを誇られますか。人が毆つたから毆り返へすのが正義だと考へ我等の家庭で、又は友人間でそれを實行して居ますか。古來我が國には此の『サムライヒ全權』の宣言したもの以上に尊い、然り、世界の何人にも恥かしくない、日本國民の眞精神はないでしやうか。我等の血管に流れてゐる父祖傳來の血の中には、本當に世界の諸國民が承認する立派な精神があつて、一度それが喚び覺まされた時には我等の總身の血が振ひ動く程の道義の觀念はないでしやうか。日本の眞精神は何であるか。私は之を探し求め度いと思ひます。そしてどうしたならばそれを世界に發揚出來るか、その道を研究し度いのであります。

私は第一に諸君に御尋ねし度い。我等日本人は世界に誇るに足る何か優秀なものを持つてゐるかどうかを。數年前滿洲に所謂某重大事件が起り、更らに之に關連して優諚事件なる物が生じ田中內閣は貴族院から彈劾されました。此の時新渡戸博士が壇上に立つて、自分は長く國際聯盟の仕事にたづさはつて歐米諸國人に接し、其國の長所を見て我が國は凡ての點に於てまだ〳〵劣る事を知つた、其時日本人がどの國に對しても誇り得るものが一つあるのを發見した。それは皇室に對する心からなる尊敬であると云はれました。我が國民が皇室を尊敬する事は實にうるはしい事と思ひます。萬世一系の皇統を戴きまた嘗て何處の國にも隷屬した事のない事、此は我が國體の精華であると思ひます。然し乍ら唯之を以て我國の行動は凡て正義であるとして外國に主張し、早晩外國人が之を承認するであらうと考へる事は出來ません。

それならば、我國は明治維新以來外國の文物を採用し僅々五六十年の中に小つぽけな極東の一島國がかうして今では世界五大國と云はれ、三大海軍國とされ、東洋諸民族の指導者として目されるやうになつた事は人類史上眞に異例でありまして、之こそ世界に誇り得ることであります。然し乍ら、それだからと云つて我が國の爲すことは悉く正義であるとは云へません。何が我が國民をして維新以來の此の大事業をなさしめたか。更らに何が我

國をして萬世一系の麗はしい天皇を戴き、まだ一度も外國からの侮りを受けさらしめたか、此等の外に顯れて居る事柄の背後に、日本民族の世界に誇る優秀なる美點が潜んで居なければなりません。此の日本の眞精神を明に認識し、之を發揮する事程、本當の愛國はないと思ひます。

私は最近頼山陽の書きました日本外史を讀んで深く感じました。此の書は明治維新の原動力となり、新日本の指導精神となつたものでありまして、實に此の書が多くの志士を奮起せしめ、皇室を中心として日本國を統一し開國進取よく今日の盛大を來らしめたのだと云つて差支ありません。

山陽は此の書で源頼朝が鎌倉に幕府を開いて以來、政權が京都を去り、武家に歸した事を述べ、其の非なることを論じたものであります。之が明治維新の指導精神となつたのであります。今日此の書を讀んで尙多くの教訓を受けます。我らが眞の日本の何たるかを知るには、まことに善い書物であります。

然るに頼山陽はかやうに日本の歴史が間違つた方向に進んだのは、頼朝の鎌倉幕府開設からであると論じましたが、私は最近此の書を讀んで本當に深く感じた事は、寧ろそれと正反對に、日本の歴史に若し此の鎌倉時代なるものがなかつたならば、恐らくは我が國は今は朝鮮と同じ運命に陷つてゐるであらうと思つたのであります。實に鎌倉時代は英國の清教徒時代に匹敵するものでありまして、此の時代に我が國民の眞精神たる日本武士が出來たのであります。本居宣長が

敷島の大和心を人とはば
朝日に匂ふ山櫻花

と咏ひました日本魂、武士の精神、これは此の鎌倉から起つたのであります。而して私は此の日本魂こそは日本が萬國に誇り得る唯一の誇りだと思ふものであります。

若し此の鎌倉時代がなかつたならば世界に誇る武士はなく、蒙古の來襲の時には一たまりもなく之に屈服したでありませう。又爾來内亂に次ぐに内亂を以てした時、皇室は非常に窮乏されましたが、然しよく存續されまし

たのは、此の時生れた武士の精神が日本の中堅となり、之を護つたからであります。私は憚らずして云ひ得ます若し頼朝が鎌倉に幕府を開かなかつたならば、多分我國民は今日萬世一系の天皇を戴くことが出來ず、世界に國體の優秀を誇り得ず、まして維新の大業を成就し、今日世界の大國となることは出來なかつたであらうと。

日本の眞髓は實に鎌倉時代に在ります。今でこそ遊覽地として骨董化され、海水浴場、別莊地として日本屈指の惰弱な享樂地とされて居ます此の鎌倉は、我が國民の明治維新の原動力、それ以來の世界的大發展の根本精神たる日本魂、武士道の發源地であります。若し我が國民が此の時代に源を發した日本魂を充分に理解し、此の上に立つて新時代に行動したならば、現今の如き國難には遭遇する事はなく、世界の諸國民から不義國としてかやうな大なる侮辱を受けずにすみ、彼等をして我が國民の武力でなくして我が國の精神の前に跪かしめ得たと思ひます。

昨今、我等の間に日本的基督教なるものが唱道せられ我等の信ずる基督教は外國の宗教でなく、日本人が日本人として信ずる宗教、「澤庵漬の臭のする基督教」でなければならないと說かれてゐます。然らば何が日本的であるかと聞くに、私はまだ何人からも之を充分に說明されません。私は信じます。眞に日本的なるものは此の鎌倉時代に發した武士的精神であり、此の精神を以て信じた基督教が澤庵漬の臭のする日本的基督教であると。そして此の基督教が信ぜられる時、「日本の正義は滿洲を救ひ、極東を救ひ、世界を救ひ、全世界を支配する」ものと確信します。それ故私はかやうな基督教を說く前に、先づ此の鎌倉時代に生れた日本の眞精神はどんなものであつたかについて語り度あります。

次の講演の後『澤庵くさきイエス』の提唱者田村直臣先生から『日本人の手によりて現在の基督教を建直する必要なきか』と題するパンフレットを頂き、先生の說かれる『澤庵臭』の何たるかを知り得たことを感謝した。

イエス・キリスト（八）

江原萬里

ダビデの子

それ信仰は望むところを確信し、見ぬ物を眞實とするなり古への人之によりて證せられたり。信仰によりて我等は、もろもろの世界の神の言にて造られ、見ゆる物の顯はるる物より成らざるを悟る。……彼等はみな信仰を懷きて死にたり。未だ約束の物を受けざりしが、遙にこれを見て迎へ、地にては旅人また寓れる者なるを言ひあらはせり。（ヘブル書一一・一一一三）

希望の民

由來ユダヤ民族は信仰の民であり、希望の民である。彼等は神は全人類中から自分らだけを選び、之に特別の任務を授け給うたと確信する。彼等は神が彼等を用ゐて將來此の地上に出現せしめると約束し給うた約束を信じ黄金社會を待ち望み、そのために生きる民である。

然し乍ら各人は性格と境遇とを異にし、その願ふところも亦同一ではない。己れ自身につき、己が國につき、又全人類についてかくあるべきものとし、かくあり度しと願ふ理想は異なる。それ故ユダヤ人は將來出現すべきものとして待望した黄金社會、即ち彼等の神の國も亦各人決して同じものではなかつた。只一つ此の待望に關連してユダヤ人に共通なるものがあつた。それは彼等の待ち望む神の國が此の地上に現はれるには、神から遣はされて偉大なる人物が現はれ、それが神の能力を具現して、此の地上に聖徒の國を建て、その王として之に君臨するといふ信念である。彼等は皆その出現を待ち望んだ。

然らば此の救主は如何なる人物か。前にも述べたやうに、人各々その理想を異にし、彼等の希望する神の國の性質も亦人々によつて同一でないために、之を地上に實現せしむべきメシヤ（救主即ちキリスト）の性質も亦人に由り同一ではなかつた。

イエスが生れ給うた頃、彼等の政治家即ち祭司たちは內は社會の秩序の維持を第一とし、外はギリシヤ、ロマ

の文化を採用して國利民福を計らうとして、ユダヤ人のメシヤ待望が動もすればメシヤと自稱して排外獨立の運動を起し、民心を煽動する者を出し、社會の秩序を破り徒らにロマ官憲の神經を刺激することを好まず、寧ろ國民傳來のメシヤ待望を以て危險視した。

又彼等のうちの哲學者、例ばフキロの如きは、勉めて此の思想をギリシヤ哲學に由て、之を宇宙成就の一原理として說明し去らんとするものもあつた。他方一般民衆のメシヤ王國の思想は餘りに物質的であつて、ロマ帝國にまさる此の世の榮華と偉大とを夢みたのである。此等のことは現代の信者及び不信者がイエス・キリストにつき、又その建設し給ふ御國について、今尙我等の間に考へて居るものと殆んど何の相違もない。

然し乍らイエスが出で給うた頃、老いたるシメオンのやうにユダヤ人のうち眞に『イスラエルの慰められんこと』即ちキリストの出現を待ち望んだものは決して少なくはなかつた。彼等は彼等の聖書即ち舊約聖書により、預言者たちが彼等に傳へた神の約束を信じ、神的能力をもつて彼等に臨み、彼等の心の奧なる全人格的欲求を充すキリストの來るべきことを待つた。然るに彼らが據つてもつて待ちつゝあるキリストについて、舊約聖書の中には凡そ三樣の觀方がある。それ故等しくキリストを待望しつゝ、彼らの理想とするメシヤ王國とメシヤとは大體之を三つに分つ事が出來た。此の第一は國民的理想の具現者としての救主、第二は現物質的世界の上なる靈的世界を來らす救主、第三は神に對する人々の罪の赦を得さす救主、之である。

國民的救主

前にも述べたやうに、ユダヤ民族はその成り立ちの時から自らを神の選民なりと確信した者である。神は彼等の先祖アブラハムに云ひ給うた。『我汝と汝の後の子孫に此の汝が寄寓する地即ちカナンの全地を與へて、永久の產業となさん。而して我彼らの神となるべし』(創世記一七・八)又言ひ給はく、『汝の子孫によりて天下の民皆福祉を得べし』(同二二・一八)と。彼等は此の理想に生き

たのである。

神は彼等がエジプトに於ける窮厄の時に之を顧み、モーセを以て彼等をエジプトより引出し、之に律法を與へ之をカナンの地に還へらしめ、周圍の諸民族から彼等を保護し給うた。彼等は全人類中特別に神に惠まれ、特別の任務を之に課せられた事を確信し、此の事が民族たる根本意識をなして居るのである。此の確信なくして彼等は存在しない。彼等が今尙世界に流浪しつつ民族として獨自の存在を有し、此の地上から絶えないのは、此の民族意識が絶えないからである。神を信ずる者は窮するも決して滅びない。

全宇宙に唯一つの神あり、天地を創造し、全地の民を支配し給ふ。卽ち我等の神エホバなり。全地の民のうち唯一の民あり、神に選ばれて全人類に神ある事を示す。卽ち我等ユダヤ人なり。此の確信は彼等の國土が地中海東岸の山地に在り、全地球より見て彈丸黑子の如く狹隘なるに拘はらず、又彼等の人口が僅少にして世界の人口の百分の一にも足らないのに拘はらず、又彼等の周圍にバビロン、アッシリヤ、ペルシヤ、エジプト、ギリシヤ、ロマ等の大帝國が次から次にと起り、彼等を隸屬しても尙此の確信を棄てない。否、彼等自身十二族に分裂し、その十族はアッシリヤに捕へられて、行途不明となり、殘りの二族も亦バビロンのために捕へられ、國は一時滅んでも尙、彼等は此の確信を失はなかつた。

否、更らに彼等は己が民族が神に對する背信の罪の報を受け、そのための悲慘を細さに味はつた。その罪、その罰を感じつゝ、それにも拘はらず、彼等は尙自ら神の民であり、神は特に彼等の神であり給ひ、やがてキリスト顯はれ給ふ時、彼等によつて神の神たる事を全世界に示し給ふとの確信を少しも捨てないのである。此の地上の凡ゆる富を以てするも神の此の聖召の確信を如何ともする事は出來ない。彼等は「價高き眞珠を一つ見出さばその所有を悉く賣つて之を買ひ取る商人」の如く、一切を犧牲として、今見ることを得ず、現在は只信ずる以外の何ものでもない此の確信に生きた。

之こそは實に全世界の最大の不思議である。彼等の存

在は實に人類歴史の最大の驚異である。之こそは人間の信仰がそれと正反對なる現實に打克ち、眼に見ゆる物質世界の上に明かに靈的世界の存在を立證するものではないか。我等基督者も亦かゝる者である。今見るところの我等自身、我等の無智、無能、不德、病弱、貧苦、迫害窮乏、罪を以て我等の將來の光榮を推知する事は出來ない。我等の現在の有樣は丁度正反對に向ひつゝあつてもやがて時が來る。その時の光榮の輝きや如何。これを待ち望みつゝ我等は此の地上のあらゆる困苦を耐え忍んで生存してゐるのである。

ユダヤ人はかやうに自らを神の選民と確信し、やがて神が彼等を通して此の後顯はし給ふ神の御國の到來、それをもち來らしむるキリストの出現を今か今かと待ちつゝあつた。彼等は全人類中唯一人曠野に立つ衛士のやうに長い年月暴風雨の夜も、雪の日も神の約束の成就の日來るべき者の到來を待ち望んだ。來るべき者が來り、その時成就すべき神の約束なるものは、當然に彼等が神の特別の選民であることがその日に至つて立派に證據立てられんことであつた。

或る者はキリストが出現する時は、ロマ大帝國に勝る大帝國を建設し、彼等を支配した者を彼等が支配し、彼等を虐げた者を打ちひしぎ、物質的に權と榮とを誇るに至ることを夢みたが、彼等の預言者たちが彼等に語つたものは只自己の繁榮でなくして、本當に「汝の子孫により萬國の民福を得」べきものであつた。

イザヤの預言

キリストの日に於ける此の國民的大理想を語つたもので、イザヤの預言程偉大なるものはあるまい。恐らくはこれ程世界人類に對し、己が國民的崇高の理想を說いたものは他に之を見ることは出來ない。

今、くるしみを受くれども、
後には闇なかるべし。
昔はゼブルンの地、ナフタリの地を、
あなどられしめ給ひしかど、
後には海にそひたる地、ヨルダンの外の地、

ことくに人のガリラヤに榮を受けしめ給へり。
幽暗をあゆめる民は大なる光を見、
死蔭の地にすめる者のうへに光照せり。
なんぢ　民をまし、その歡喜を大にし給へば、
かれらは收獲時によろこぶが如く、
掠物をわかつときに樂しむがことく
汝の御前によろこべり。（イザヤ書九・一―三）

かく彼等の堅忍不拔の待望が滿され、暗黑に光明を仰ぎ死地に活を得、彼等のうちに神の國が建設され、人々皆神を讃美し、その恩惠を喜こぶことを得せしめられるため一人のキリストが生れる。

ひとりの嬰兒、われらのために生れたり、
我らはひとりの子をあたへられたり。
政事はその肩にあり、
その名は奇妙なる議士、また大能の神、
とこしへのちゝ、平和の君ととなへられん。
その政事と平和とは、ましくははりて窮りなし。
且つダビデの位にすわりてその國を治め
今よりのち、とこしへに公平と正義とをもて、
之を立て、これを保ちたまはん。
萬軍のエホバの熱心これを成し給ふべし。（同九・六―七）

神から遣はされたキリストはダビデの子にして、ユダヤ人の王として生れ、ダビデの王位に即くのである。その時始めて正義と公平の行はれる神の國が實現し、地上永遠の平和が臨む。

エツサイ（ダビデの父）の株より一つの芽いで
その根より一つの枝はえて實を結ばん
その上にエホバの靈とゞまらん。
智慧、聰明の靈、謀略才能の靈、知識の靈、
エホバをおそるゝの靈、
かれはエホバを畏るゝを歡樂とし、
また目みるところによりて審判せず、
耳きくところによりて斷定をなさず

正義をもて貧しき者をさばき
公平をもて國のうち卑しき者のため斷定をなし、
その口の杖をもて國をうち
その口唇の氣息をもて惡人を殺すべし。
正義はその腰の帶となり、
忠信はその身のおびとならん。

おほかみは小羊とともにやどり、
豹は小山羊とともにふし、
犢は肥えたる家畜とともに居りて
ちいさき童子にみちびかれ、
牝牛と熊とはくひものを同にし、
熊の子と牛の子とともにふし、
獅子はうしの如く藁をくらひ、
乳兒は毒蛇のほらにたはむれ、
乳ばなれの兒は手をまむしの穴にいれん。
斯てわが聖き山のいづこにも害ふことなく
傷つくことなからん。

そは水の海をおほへる如く、
エホバをしるの知識地にみつべけれはなり。
（イザヤ一一・一―九）

エホバを知るの知識全地に徧し、これ神がイスラエルの民を選び、彼等を用ゐてキリストの日に全世界の民を教へ導かしめ給ふからである。彼等はかく己が民族の使命を確信した。如何に崇大なる理想であるか。

すゑの日にエホバの家の山（エルサレム）は
もろもろの山の頂に堅く立ち、
もろもろの嶺よりもたかく擧り、
すべての國は流のごとく之につかん。

おほくの民ゆきて相語りていはん、
いざ、われらエホバの山にのぼり、
ヤコブの神の家にゆかん。
神かれらにその道を教へ、
われらその道を歩むべしと。

そは律法はシオン（エルサレム）より出で、
エホバの言はエルサレムより出づべければなり。

エホバもろもろの國のあひだをさばき、
おほくの民をせめたまはん。
斯てかれらはその劍をうちかへて鋤となし、
その槍をうちかへて鎌となし、
國は國にむかひて劍をあげず、
戰鬪のことを再び學ばざるべし。（イザヤ二・二—四）

これがユダヤ人の抱懷する國民的大理想であり、此の大理想の達成者としてキリスト出現の希望であつた。私は幾多の民族中これ程偉大な國民的理想を有する者を他に見ない。然かも之を把持することの强烈なる、彼等が幾多の辛慘を受け、他民族に迫害屈服せしめられ、自らも亦種々の罪を犯し、彼等の現實は少しもこの理想を達成する何の根據もないと思はれるその時、彼等は確く之を成就し給ふ神を信じて動かなかつたのである。どの位我らの驚異驚嘆に値するかを思ひ見よ。

ダビデの子たるイエス

實にナザレのイエスは此の國民的大理想の達成者として、彼らのうちに來たり給うたのであつた。イエスは勿論彼らのうちの多くのものが願つて居たやうな、國民的自負心の滿足、即ちロマ帝國に代るユダヤ大帝國の建設をその目的とし給はなかつた。彼は傳道の最初、曠野に於ける四十日四十夜の誘惑に之を感じ、而して之を拒否し給うた。

然し乍らイエスは明かにダビデの子として生れ給ひ、國民的理想の達成者たるキリストとして來り給うたのである。若しイスラエルの民が眞に神の選民であり、神彼等に約束して彼等にかやうな偉大な國民的理想を與へ給うたものならば、神もしその約束を履行し給はねば神ではない。イエス若し神の子であり、神から遣はされて彼らのうちに現はれ給うた眞のキリストであり給うならば此の人類史上にこれ以上のものなき此の偉大な國民的理想を達成し給はねば、彼は眞に人類の救主ではない。

然りイエスは『律法また預言者を毀たんとて來らず反つて成就せん爲め』（マタイ傳五・一七）來り、全人類の「救はユダヤ人より出づ」（ヨハネ傳四・二二）と云ひ給うた。イエスは此の國民的大希望に無關心であり給はないイエスには燃ゆるが如き愛國の情熱があつた。彼今最後の死を期してエルサレムに上り給うた時、首府を見て之がために泣き給うた。

ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し遣はされたる人々を石にて擊つ者よ、牝鷄のその雛を翼の下に集むるごとく我なんぢの子どもを集めんとせしこと幾度ぞや。　然れど汝らは好まざりき視よ　汝らの家は廢てられて汝らに遺らん。われ汝らに告ぐ『讃むべきかな主の名によりて來る者』と汝らのいふ時の至るまでは今より我を見ざるべし。

（マタイ傳二三・三七―三九）

此の悲痛なる叫びのうちに、イエスは彼等がこれを受けなくとも、彼らの待望してゐた眞のキリストであり、早晩之を達せしめる自信のあつた事を我らは明に認め得る。イエスは眞に『ダビデの子』たるキリストであつたマタイ傳は實に此の確信を以て書かれたものである。

イエスが『ダビデの子』であると云ふことは決して只單にユダヤ人の精神を完成するといふ意味ではない、イエスは眞實彼らが願ひつゝある地上の神の國の出現、その時に於ける彼等の民族の世界的位置の確保者としてのキリストであり給うといふことである。マタイ傳の權威ある研究、ヘブル・クリスチヤン・メサイヤの著者ルーキン・ウキリアムス氏は云ふ。『人々は精神的感應を以て眞理を確證し、之に對する外形の事實の存立を要しないと云ふが決してそうでない。なる程、精神的感應そのものは事實であつて、それは只の夢想ではない。そして我らは精神以外のものから精神の感應が來らない事を知る然し乍ら我等は精神だけで生きてゐない。外形の事實、固い事實の上に生きてゐる。そして我らの精神も究極に於ては此の事實から感應を受けるのである。外なる事實が全くなくして只孤立して存する精神感應は本當ではない』と。

我等は現在パウロの云ふ如く（コリント後書五・七）見ゆるところに由らず、信仰で歩んでゐる。『それ信仰は望むところを確信し、見ぬものを眞實とするなり』（ヘブル書一一・一）である。然し乍ら我らはあるかないか明瞭でないものをありと信ずるのではない。あるものをありとするのである。即ち死から甦り今活けるキリストを信じてそれに全生命を託してゐる。此のイエスは實際にユダヤ人が多年の期待してゐたキリストである。彼等の王として彼等の國民的大理想を達成し、その民族が眞に神の選民であつたことを將來證明し給ふ者である。それは事實、頑固なる事實に於ての證明である。それ故に聖書の神の言を信じてその信仰は恥を來らせないのである。

ダビデの子以上

然し乍らイエスが彼等の國民的希望の達成者たるキリストであり給うと云ふことは、彼等の多くの者が夢想するユダヤ大帝國の建設者であると云ふのではない。この事は前に述べた。イエスは彼等が待ち望んだキリストではあつたが、又それ以上の者であり給うた。それ故彼等が期待と寸分違はないキリストではなかつた。

イエスはロマ帝國に代る地上大帝國の建設者ではなかつた。その證據はイエスが死を覺悟してエルサレムに入城し給うた時の光景でも知らる。彼は今まで自分がキリストである事を秘し、弟子が之を告白した時も誰にも告げるなと警しめ給うた。然るに今や彼自らキリストとして公然エルサレムに入城し、彼を歡び迎へたものがキリストとして之を歡迎する事を少しも忌避し給はなかつた最早、死は數日中に在り、どんなに誤解されても知れたものであることを知り給うたからである。然かも彼はキリストとして入城しつゝ、その姿は決して大將軍、大王の如くならず、驢馬に乘り、ガリラヤの田舍者に擬せられ『ダビデの子にホザナ』と歌へる彼等の歡呼の聲と共に入り來り給うたのである。

視よ、汝の王、なんぢに來り給ふ。柔和にして驢馬に乘り、軛（くびき）を負ふ驢馬の子に乘りて（マタイ傳二一・五）

次にイエスはダビデの子にして彼等の待ち望む眞のメ

シヤであり給うたが、然し彼は又それ以上の方であつたエルサレムに入りてイエスの許にパリサイ人が集まり來た時、彼は之に問ひ給うた。

「なんぢらはキリストに就きて如何に思ふか、誰の子なるか」かれら言ふ『ダビデの子なり』。イエス云ひ給ふ。『さらばダビデ御靈に感じて何故かれを主と稱ふるか。曰く『主、わが主に言ひ給ふ。われ汝の敵を汝の足の下に置くまでは、我が右に座せよ』。かくダビデ彼を主と稱ふれば、いかでその子ならんや。

誰も一言だに答ふること能はず、その日より敢て復イエスに問ふ者なかりき。（マタイ傳二二・四一以下）

イエスはダビデの子として、その父祖傳來の崇高なる國民的大理想を完成するメシヤ以上の人格であつた。彼はそれ以上の大事業を此の地上になすために來り給うたのであつた。次に之を述べやう。

棄教問答（下）

江原萬里

金、趣味、健康、信仰

客「あなたは人間は聖なる生涯を送り得る程の幸福はないと云はれますが、私が實際ほしいと思つて居るものは金です。私は自分で宗教は人間に必要だなと思ふ時は、きつと私の心が減入つて居る時です。その時の慰として宗教が必要だと思ふのです。ですから宗教といふものは弱者に必要なので、强者には宗教などはいりません。金です。金さへあれば大ていのことは思ふやうに出來ますからね。そしてそれが一番愉快な事です人間の幸福で金で買ひ得られないものは殆んどないと思ひます。」

主「之は面白い御意見ですね。あなたはそんなに金の力を信じて居られるのですか。成る程金は大切だと私も

思ひます。私は贅澤は決して望みませんが、せめて一家に餓死の心配なく、出來れば私自身が受けた位の教育は子供にも受けさせてやり度いと願ひ、それだけの金はほしいものだといつも思つてゐます。然し、あなたのやうな現在日本での有數の大金持が、まだ此の上金がほしいと云はれるのは實に不思議ですね。一體何のためにそんなに金がほしいのですか。私達のやうな貧乏人には到底想像も出來ませんね。私は金のない者が金持の心を知らずに、やたらに之を攻擊することは善くない事だと常に思つてゐます。多分金持には金持として同情すべき事が澤山にあるでせう。あなたが金をほしがられる理由を敎へて頂けば有り難いと思ひます。」

客「いや、私は金がほしいと云ふのは、買ひ度いもの、仕度い事が澤山あるからです。又よく人が物を買つてくれと云つて來ます。買つて上げ度い事は山々ですが大ていは高價なものばかりです。私にもそう金があるわけではありません。だから金がほしいのです。今もお寺を一ツ建てゝくれと云つて來てゐる人があります又私は美術が好きで、色々のものを買ひ度いと思ひますが、金がないと買へません。」

主「成る程そうですか。金閣寺を一つ建て度いお積りですか。實際金をほしがる心は際限がないものですね。あればある程ほしくなるものだと聞きましたが本當ですね。寧ろ、私のやうな無い者程ほしがりませんね。私はあなたの事を始終思つてゐる、或る者と度々あなたの御噂をしますが、まだ一度もあなたと私と境遇を交換し度いと考へた事はありません。失禮乍ら私はどんなにかあなたよりは幸福だと思つて、人にもそう云つてゐるのです。私には金に對してあなたがもつて居られるやうな欲望がありません。勿論私は私の一家を支へるために常に心を苦しめ、又私の今してゐる仕事についても、今少し餘裕があつたらもう少ししして見度いと思ふ事もありますが、私はまだ誰にも一度も寄附を乞ふた事がありません。あなたと長いこと交際し乍ら未だ金のことであなたを煩したことは一度もないと

思ひます。このことはあなたも御承知でせう。そのくせ、僅かの金でも誰かゞ心からの愛をもつて私に寄附してくれた時には、私は何とも云ひ得ない身の幸福を感じます。この幸福はあなたにはないでしよう。金のない者の特權ですからね。又私自身それこそ實際云ふに足らない金高ではありますが、時々他の人がして居られる尊い仕事に敬意を表するため、又苦しんでゐる人に同情するため少しばかりの寄附することもあります。その時は自分で何とも云へない清々した氣持がします。金のない私の方が金のあるあなたより幸福ですね。」

客「或はそうかも知れませんね。然し私には金がなければ生きてゆかれません。」

主「金のない幸福は金持にはわかりませんよ。私がこう云ふ風に少しでも人々に心からの同情をもち得るやうになつたのも、實は私自身少しくそれらの人々に似た苦しみを經驗して居るからです。私が以前生活には困らないだけの月給を得てゐた時には甚だ恥しい話ですが、今程の同情心さへもありませんでした。今から考へて見て、あの頃、あの人に、又この人に、あゝして置けばよかつたのにと悔ゆることがよくあります。私は金がなくなつてから始めて人間らしい心持ちになり得たやうに思ひます。」

客「でも金がなかつたならば私には何の幸福もありませんね。」

主「あなたは人間萬事金だと云はれますが、私はそれに同意しかねます。私の知人に、若い時あなたと同じやうな考で一生懸命金をためた人があります。其の人はかなりの財産家になりました。然しあたら人生の花時を悉く金のために費して、金以外に尊いものを求めやうともしませんでした。年進んで金は所期の通り出來ましたから、さてその金をどう使用し、老後を樂しまうかと考へ始めました。虐が惡いことには健康も次第に衰へて來て、人生を樂しむだけの氣力もなくなりました。先日も京都奈良の古都を訪ねて見やうかと思ひ立ちましたが、さて一人で出掛けたとて何の面白味も

なさそうです。八堂伽藍八重櫻も何の感興をひきそうもありません。そう思ふと旅行しても何の樂しみもなささうですから到々旅行するのをやめて家に引籠り新調のカバンに小言を云ひ乍ら不愉快の日を送つたと云ふことです。人生は決して金ではありませんね。」

客「そうですね。金だけではつまらない。趣味がなければ京都や奈良に旅行しても面白くないでせうね。健康も亦必要ですね。私は今日趣味に生きてゐるのですが身體が弱いので殘念です。思ふことが出來ません。」

主「私はいつもあなたは金があるから不幸だと噂してゐるのです。實は往くとして可ならざるなきあなたの多藝多能には驚嘆して居ます。もしその天賦の才能を或る一事に集中されたならば、今までどもどんなにか世間を驚かすやうな仕事をされたかわからないと本當に惜しく思つて居るのです。それだのにあなたは折角或る仕事を始めて、大分物になりかけると思ふ頃には、もう倦いて他の事に移られるのです。それは一つはあなたが食ふに困らず、遊んで居ても一生を暮すことが出來るからだと思ひます。兎に角優れた才能を多分に有たれるあなたとしては、金がある事が不幸だと私は思ひます。一體今は何をして居られますか、何か本當に魂を打ち込むやうな仕事を發見されませんか。」

客「いや、そんなものはありません。何しろ身體が弱いものですから……」

主「金ではてんで競爭出來ませんが、身體の弱い事の御自慢ならば、私は決してあなたに敗けませんよ。然かし私は身體が弱いから今の私の仕事に魂を打ち込み得られたのです。金がなく、身體が弱い事が私の生活を有意義にしてくれて居るのです。」

客「私は何事にも執着がないとでも云ふのでせうか。毎日その日が面白く過せたらそれでよいのです。餘り肩のこる仕事をするとすぐつかれますから致しません。早く時が過ぎて、老人になつて、死ねばそれでよい身です。今すぐ死に度いとは思ひませんが……」

主「それはお氣の毒ですね。何とかもつと毎日の生活が充實し、人生が愉快になる工夫をされたらよいと思ひ

ます。金は澤山おありですから、一つそれを今よりももつと有効に使用する道を考へられたならばどうでしやう。それだけでも一日が充實しますよ。」

客「そうかも知れませんね。」

主「然し色々御話を伺つてゐますと、あなたの最大の御不幸は身體の弱い事でもなく、金が足りない事では勿論なく、才能がないのでもなく、實はあたが昔熱心であつた基督教を棄てられた事にあるやうに私は思ひます。嘗て人生の光明の所在をこゝに發見し、その獲得に熱心され、それで充實した生活を送られて、心に苦しみ乍らも人生その者に對して生くる價値を認められた時の方が、今に比べてあなたはどんなにか幸福であつたでせう。その頃は多分友達との交際も今よりはもつと眞劍な交りがあり、愛があつたと思ひます。一たび基督教を棄てられてから、人生に對する昔の熱心が冷え、その時經驗された希望と喜悅はなくなり、之に代るものを他に求めて何處にもそれが見當らず金、趣味といろいろものを漁りつゝ、結局人生の空虛を感じ、早く老人になつて此の世を去ることが殘された唯一の慰めとなられたやうですね。世間が見て大層幸福な方と云つて羨むあなたの境遇と、世間の人から不幸だと云つて憐まれる私の境遇と、實際幸福の點では丁度正反對にあるのは、結局私は馬鹿正直に昔乍らの信仰の道を益々勇猛に進んでゐるのと、餘りに聰明なあなたはそれから外れて此の世の提供する樂しみをあなた御自身の天賦の多藝多能と豐なる財とによつて味はうとされて、あちら、こちらと迷はれることから來る相違だと思ひます。どうでせう。」

客「そうですね。强ゐて反對は致しません。」

主「然し私はあなたに今基督教にお歸へりなさいとはすゝめません。私がすゝめて歸られるやうならば、聰明なあなたの事ですから、とつくに歸つて居られない事はないと思ひます。若し神樣があなたを立ち歸へらせやうとされたならば、いつかあなたは歸へつてこられると思ひます。いくらあなたの心が之に反抗しても勝てません。そしてあなたがそういふ神樣に屈服させら

れる事は恥辱でなくて、生涯の大きな名譽です。その時は今まであなたが基督教を離れてから經驗された事柄の一つ一つが皆んな光輝を發し、悉く意義あるものとなるであらうと思ひます。パウロのやうに基督者を迫害した前半生すら基督教史に重大な意義が生じました。基督教の神様はそういふ神様です。罪のうちから救ひ給うて之に光榮を與へ給う神様です。私はさういふ時があなたにもいつか來て、あなたのこれからの生涯に人々の讃嘆するやうな事が起る時を待ちます。其時私との交際も今よりどんなにか惠まれるでせう。多分その時始めてあなたも私の眞實なるものゝ本當のところを解して頂けるかと思ひます。あなたが今でも金や趣味でなく、本當に阿彌陀佛に信賴して居られるならば、私の云ふことは多分おわかりだと思ひます。

客「思はず長く話しましたね。もう何時でしやう。」

主「自動車の運轉手が外で大あくびをしてゐるでせう。ではさやうなら。氣が向いたら又御出で下さい。」

柏木通信（第廿九信）

齋藤宗次郎

柏木の近狀　内村の家に春と秋とが一緒に來た樣だとは、札幌と京城より最愛の家族近親八人を迎へられし時の靜子夫人の喜びの聲であつた。予は編輯室に在つて天眞なる此等小さき群の嬉戯の音を聞くの喜びに優つて祐之博士が不思議にも難症癒えて退院間もなく、札幌より京都に至る日本海岸の長途を走り、三日間の醫學會に臨んで歸られし元氣なる身に接するを得しは大なる感謝であつた。○假令編輯事務多端の時であつても遠來の珍客を迎ふることは樂しくある。陸中花卷の照井氏は紀念會に出席せん爲に上京し、一日編輯室に來り報恩の念を胸に湛えつゝ全集の產出の源を探つて歎稱し去つた。程なく札幌の宮部博士突如として現はれ、溢るゝ友情を懷いて六十年前の尊き事實を物語らるゝを聽ては、全集に沒頭する我心と手とに誠實の增し加はるを覺えた。○庭前の櫻花軒を覗く頃になれば毎年先生の崇嚴なる臨終を徐ろに偲ばるゝ。我等は柏木の里に居つて關西、九州、朝鮮、北海道等各地に催されし意味深き記念會の報告を

讀んで言ひ盡されぬ感謝を有つものである。東京の地柏木よ汝は日本の中にあつていと小さきものに非ずと言ひ得るであらう。

内村先生の三周年記念會　内村先生が主の再臨の日に始めて悟了せらるゝ様な崇高の言を最後として世を去られてより玆に三周年の月日を經過した。我等は其鴻恩を謝し、又其善美なる攝理の根幹を讃し、特に其福音の眞髓を證し且つ之を實現することを以て記念日を迎へねばならぬ。之が準備員として選ばれし兄弟等は幾回も相集りて聖旨を仰き求めたが、永井氏宅に開かれた盛んなる洗足會の如きも全心全力を之がために注いだのであつた。終に其日は迫り其時は臨んだ。三月廿六日より廿八日に亘つて、天日の明と春風の和を經緯とせる赫奕の事實は歴史の面上を過ぎた、更に來るべき或るものを豫徵しつゝ。(一)、東京朝日新聞社講堂に於ける講演會を以て始つた。此日此處に導かれし者一千一百十名、訓練成れる靜肅の會場の講壇に立つて塚本氏は、靴を脱いで立つべき神の臨み給ふ聖なる教會の所在を指示された。三谷氏は、空理空論を斥けイエスの如くに實質的に汝の國民を愛せよと告げた。矢内原氏は、慢性的非常時の俗聲を排し、主が獨十字架のエルサレムに向つて進軍し給ひしに倣ひ我等も亦正義と愛の爲に死なねばならぬと叫んだ。畔上氏は、律法の舊きを棄て、先生の遺されし眞理第一の精神の下に凡を服從せしむべきであると斷じた司會者金澤氏の祈禱は嘉納された。讃美歌一六六番を唱ふる全員の聲は高く神の寶座に達するを感じた。(二)、丸の内會館なる**晩餐會**に列するもの約百名、山桝氏之を司會した。撮影、會食の後卓上感話に移つた。札幌なる令息内村博士に代つて立たれし靜子夫人の外は、年齢職業、地方海外等を代表して藤本、青木、濱田、時田、玉川、石河、花島、松田、田島、蘆、青山、三谷、大島の諸氏指名され各々先生を透して受けし尊き事實と之に對する感想とを眞摯に誠實に愉快に述べて、其都度一人の喜びの如く一人の笑ひの如くに一致の動きに出で、深く和樂團欒の愛を示した。最後に名古屋氏の捧げし心迫つて言躓くの觀ある感謝の祈に一同アーメンを和した。(三)、**墓前集會**、復活の希望と歡喜とを心頭に翳して我等六十餘名先生の墓前に半圓に立ち並んだ。天地は陽光と松籟と鳥聲とを以て之に參加した。先生愛誦の歌を歌ひ聖句を讀んだ。司會者の祈に數名の祈は續いた。一同順次に進んで敬意を表して後散會を告げしも、此時代此地に先生を產み、あの生涯とあの教を遺さしめ給ひし神の聖旨の妙なるを思ふて此清域を中々に去り得ざる態であつた。凡ての人は徒らに偉人の墓を白く塗つてはなら

ない。單に故人追慕の地點としてはならない。地と肉とを離れ天と靈とを思ふて神の懷に還るべき所である。(四)、所謂水入らずの記念會は舊聖書講堂に於て記念日の夜に開かれた。滿堂の教友悉く一つの葡萄樹に連り同し師に培はれて育ち來りし兄弟姉妹である。會は大賀氏の指揮の下に動いた。敢て鞭撻と修養との努力を加へずとも、年々に强まり行く愛の連鎖は、高きも低きも富も貧も老いも若きもキリストに在りて一體とならずば止まぬ勢である。ヨシュアの書についで小菅禁錮中なる一囚人の感謝の手紙も朗讀された。石原兵永氏は、棺を蓋ふて後に益々大を現はし來る先生を偲び、時代は此偉人を要すと述べた。鈴木俊郎氏はキリストに在りて始終せられし先生の精神を發揮する點に於て、内村全集編輯の困難を語つた。三谷民子氏は先生の家庭的なる溫かき生活の一面に接せし實驗談を以て一同を笑はした。淺野猶三郎氏、照井眞臣乳氏、葛卷行孝氏、樋口てふ氏、坂田祐氏は各々先生の美點長所に接して感じたる所を述べ、最後に藤本武平二氏は、先生を多角形に見るは皮相に過ぎず、正義と愛なる十字架の福音第一を以て立ち、其生命の活動は先生の全生涯を貫いたのであると剴切深刻なる觀察を以て力强く結んだ。緊張せる會衆の視線は一齊に壁上なる恩師の寫眞に注いだ。時に「千歲の岩よ」は聲の限りに歌はれた。豐かなる祝福のうちに記念會を畢へた。顧みて只感謝あるのみである。我等天より示されずば此先生を解することが出來ない、又天の惠みによるにあらずば我等は主の愛を以て互に連ることは出來ない。人物崇拜にあらず、十字架中心の眞理に生きし生涯は永久に記念せねばならぬ。黃白黑の各人種互に愛の手を握つて此日を覺ゆるは果して何れの日ぞ。(五)、僅かに數人の企劃によらず、純信仰に立つ天下同志一同の願ひに起りし今回の諸集會は、常に信仰と愛と希望の一致に出で、凡て聖靈の優渥なる活動に因りて成りしは我等の感謝に堪へざる所である。四月九日夜今井館に於て其感謝會を開いた。大島先生の感謝の祈禱を以て始め、先づ藤本氏は今回の記念會は精神事實共に悉く御名の榮光の爲めにのみ爲し得たるは、内村先生の記念會として眞に適應はしきものであつた。是れ全く神の愛憐によるものであると述べて會員の心に感謝の洪濤を漲らした。更に今後惡魔の狙ふべき點をも指摘して警戒を與へし後、予は會計報告をなし、此處にも亦自由獨立の精神を全うするの恩寵に浴せし欣びを告げた。次に畔上氏の關西に於ける感謝すべき諸集會の報告ありて數名の切なる感謝の祈は捧げられた。最後に内村博士の慇懃なる謝辭あつて閉會となつた。實に感謝の外あるなしであつた。

日曜の集會　天然の天氣は時毎に變り、新聞の記事は日毎に變つても、變らぬは我等の日曜集會に於ける神の惠みである。新しき革囊を携へて神の大庭に立つ者は眞に幸福である。

パウロの告別演說　寶田一藏
羅馬書八章の精神　永井久錄
十字架の贖罪の眞義　藤木武平二

鎌倉に於ける基督教講話會が四月より開かるゝとの報告を聞きて一同福音の爲に感謝歡喜措く能はずであつた。

河内平野の一夜　昨日は武藏野の一角に校正のペンを握り、今日は河内平野の中央に福音を語る。信賴の生涯は計畫の人生に勝る天眞の姿である。友は八尾中學に教鞭を執るの人、科學萬能など生意氣なことをいふ階級の教育者の間に在つて、光を神に仰ぎ生命を基督に求めんとする態度に出でしは尋常の出來事ではない。筆を以て竭し難き所を親しく語り得る機會は與へられた。病妻を迎へんとて大阪に急行した爲であつた。友の家庭に客となつて東窓に生駒信貴金剛の諸山を眺め、共鳴の心躍る夫人も加はり、三人鼎坐して有益なる信仰上の質疑を問答した。日本歷史は幾度か此平野に矢叫びの聲を擧げしを傳へて居るが、我等は神武創業の眞精神を享け、新たに正義と愛の國基を築かせらるゝを感じた。春の日は既に暮れて夜も何時しか二更を過ぎんとした。勸めらるる儘安き一夜を友の家に送つた。神恩此家に盡きざれ。

津山基督教圖書館案内

館主　森本慶三

本館設立の趣旨は、主として基督教の眞理を學ぶの便に資せんとするのであります。從て其藏する所の圖書は基督教書類を加へ、其他哲學、文學、科學、歷史、地理教育、政治、經濟、社會等の方面に亘り、基督教研究に關係厚きものは幾分備へて居ります。又一面に於て、聊ながら一般社會教育の補助機關たらんことを願ひて、前記諸部門の外に、道德、修養、產業、衞生、藝術、家政鄕土研究資料に關するもの、及び日刊新聞、兒童向圖書も若干はあります。何れも和書が主で、洋書は至て僅少であります。今その部門別の藏書冊數、（昭和八年一月一日現在のもの）を擧ぐれば、次の樣であります。

第一門、基督教……二、四六四冊

同　一般宗教、佛教、神道
　　哲學、倫理、心理……一、三三〇
第二門　辭彙、解題、鄉土資料、雜誌……四三六
同　兒童書類……五九〇
第三門、教育……二三三
第四門、文學、語學……一、一八三
第五門、歷史、地理……五九一
第六門、政治、法律、經濟、社會……五五〇
第七門、數學、理學、醫學……一、二〇二
第八門、工學……二一一
第九門、藝術……一一五
第十門、農業、商業、工業……五七一
同　家政（婦人向のもの）……二〇六
洋　書……四六八

この内更に基督教書類丈の物語を細記しますれば

基督教書類

類別	和書	洋書
經典	一〇一冊	四〇冊
註解	三二五	一一一
辭典	八	一四
教理	一八九	一八
論說	七五一	四一
史傳	四四一	九
教育	六七	—
文學	一〇二	一八
雜誌	一七五	—
兒童	二一一	—

であります。

次に圖書閲覽の手續を述べますれば、

一、館内にての閲覽は無料です。
一、開館時間は午前九時より午後九時まで。
一、休館日は毎週月曜日。
一、館外に持出して閲覽になるには、本館に於て適當と認むる保證人を立て、圖書携出券の交付を申込み下さること。
一、館外携出閲覽料は一ヶ年金貳圓であります。

一、圖書携出の時は所定の借覧證に署名捺印の上、圖書携出券と共に差出し、返還の際圖書と引換に携出券を受取り下さること。

一、一回の携出圖書は五百頁以下のものは二冊、團體にては十冊、五百頁以上のものは一冊、團體にては五冊を定限として居ります。

一、携出圖書閲覧期限は、土地の遠近と圖書の種類により、一回十日乃至二十日以内、團體にては三十日以内とし、貸出の都度當館にて之を指定します。但本館の都合により右期限内と雖も、返却を求むることもあります。又若し期限後も引續き閲覧御希望の時は、延期の旨御申出下さる様願ひます。

一、閲覧圖書が毀損又は亡失した時は、其に相當する圖書又は金錢を以て辨償を願ひます。

一、遠隔地までの郵送料は閲覧の方にて御負擔を願ひます。

一、携出券申込書記載事項に異動を生じたる時は、其旨御申出を願ひます。

一、携出券亡失の場合は、相當の手續を經て再交付を致します。

御入用の節は右の手續により御利用下さる様御願ひ致します。

昭和七年四月現在の圖書目録を作成致して居りますから、御希望の方には左の代價にて御頒けいたします。

一、全部掲載のもの　一部金貳拾錢

一、基督教及一般宗教書類拔抄の分　同金拾錢

遠來の方の爲に圖書館附屬の宿泊所も設けてあります から、何日でも御利用に供します。

身邊漫筆

○私は今月二通の喜ばしい音づれに接した。二つ共舊い友愛の回復の書信であつた。私の眼は嬉れし涙に溢れた神を信ずる事程善いことはない。神は明に在し給ふ。我等の間にどんな誤解があり、互に過失があつても、神は我等を再び舊き愛に立ち歸へらしめ給ふ。我等は自分の非を飾らない。惡るかつたらば何時でもわびる事が出來る。我等の願ふところは只何が義しいかを知り、それを行はんとすることである。それ故家庭でも友人間でも神を信ずる事程善いことはない。

○昨十四日塚本虎二君が久々にて來訪され、互に打ち解けて愉快に話し合つた。塚本君は私が學生時代毎日曜日内村先生の足許にて教を受けた時からの先輩であり親友であつた。先生逝去前後から相會はざること五年の餘、今相會して互に舊い友愛の少しも渝らない事を知り合つた。神が此の日を惠み給うたことを感謝した。

○基督教講演會は豫定の通り、四月九日第一回を開いた廣告に手違ひがあつたばかりでなく、當日はかなりの雨で來會者は少なかつたが、善い會であつた。來會者の少ない事は始めから豫期したところ、今十人も來たならば椅子が不足した。東京では鎌倉には善すぎると評判して居る。別莊人に聽かす目的であるならば、勿體な過ぎるであらう。

○第一回は山田君に司會を依頼し、私が先づ『日本國の眞精神』と題して語つた。次に三谷君が『私の自己意識の變遷』と題して語つた。三谷君の話は聽衆に強い感銘を與へたやうで、有り難かつた　第一回は成功であつた後からの評に確に善い會だと云つて居る者が少なくなかつた。或る婦人から當日の感想を寄せられ、其の中

この會が一度でもよし、二度でよし、更につづかばうれしからまし。

後ろには愛の御神の味方あり、いざ鎌倉と振ひ立ませ鎌倉もきよめられ行く心地せり、汝が火の如き熱にやかれて。

○先月號に此の會の發心について書いたところ、友人か

ら贊成同情の書信を澤山貰つて有り難く思つた。其の中朝鮮京城から寄せられた次の手紙は強く感じた。

拜啓　毎月御送附下され候『聖書之眞理』誠に有り難く拜見仕り候。特に本月號『身邊漫筆』によれば、普通なれば差當り絶對安靜を要すべきおからだにも關らず今月より嘗て國難來を叫び、法華經を說きし日蓮と同じ鎌倉にて、キリストの福音を說かるる由、何とは知らず涙催され候。神の選にあづかりし者こそ迷惑にもあれ、この點私情として御同情にたえず候へ共、一方聖旨が着々としてなりつつある事を思ふ時、希望に胸おどるを覺え申候。說き給ふ福音は必ずやよき果を結ぶ事と確信致し候。

と云つて此の擧に寄附せられた。又其の他にも心から贊成され、必需の物をもつて私共を援けてくれた友人がある。永く其の好意を忘れることは出來ないであらう。私は此の擧が我等の友人間の純信仰的運動であり、現在の我が國に於て我等の仲間が眞に有意義なる足跡を遺すものとならん事を祈るのである。

○私は實は少しく疲勞が重なつて此の會の二週間前から久し振りに『差し當り絶對安靜』を强ひられて居た。第一回當日はベッドから這ひ出して出陣したのである。此の位のことは勿論覺悟の上での事である。然るに一旦講演を始めると、何者とも知れず、私の中から湧き出して來る者の存在を感じた。或る意志が私を動かして居るのである。そうでなければ此の會は開かれない。今までも幾度も抑へて、自分の意志で抑へ切れなくて創めた會であつた。之を思うて、神は我が國民を救ふためには、私のやうな廢物をすら捉へ給ふことを知つた。

○私の願ふところは此の會に於て少數の人でよし、私が今感じて居るやうに皆の者が新生命を感じ、各自神の召命を確信し、此の美はしい國土の上に神が建設し給ふ御國の先驅者とならんことを期し、奮然起ち上らんことである。我等は日本の國を救ひ得ないかも知れない。然れど此の國土の上にやがて出現させ給う神の國を確信するそのために神はバアルに跪かない神の民數千を此の地に遺しおき給うたと信ずる。我等はそれ等の人々に呼びか

けて居るのである。鎌倉の別莊人を相手にしない。

○鎌倉は我が國民が世界に誇るに足る日本魂、武士的精神の發祥地であつた。之が日本の脊髓となり、明治維新以來の大發展をやつたのである。我等は此の鎌倉をして再び之を新らしき日本の新らしい精神の發祥地とし度いために、此の地で聖書を說くのである。私は第一回の講話に此の事を語つた。第二回目は鎌倉に發した日本的精神はどんなものであつたかを說き、第三回に我が鎌倉時代によく似た英國の淸敎徒時代、殊にクロムウエルにつき語り、兩者相似たるも只一つ大きな相違があつた。それは一方には聖書があつた事である。之が英民族を改造し今日日沒を見ない國土の支配者とした。されば此の後我が國民が鎌倉時代に發した日本精神を以て聖書を信じた時、どんな偉大な國民になるであらうかを說かうとする。之が私の會設立の趣旨である。開會の辭が少なくとも三四日に亘るのである。此の趣意に贊成する同志は奮つて參加され度い。

○此の度の會は鎌倉に善すぎはしないが、善すぎるものが一つ私の鄕里にある。それは今月號に紹介された森本慶三氏の建てられた津山基督敎圖書館である。巨萬の財產を投げ出して鄕里の人々に靈魂の糧を與へやうとせられた此の美擧を、私の鄕里の人は充分に悟らないのは殘念である。こんな立派な圖書館は東京にもない。中國の山間に在るのは惜しいと思ふ位である。然し、いつか鄕里の人もその價値を知るやうになるであらう。私はそれを待つ。本誌讀者にも此の圖書館の利用を勸め度い。

○數日前、永いこと中學校の敎師をし、校長をして居た文學士と云ふ風彩堂々たる紳士が私を訪ね、これから基督敎を學び度いと云ふので、私は本氣で話した。度々來て話を伺ひ度いと云つて歸へつた。數日後再度來訪。其の時は生憎私は『差し當り絕對安靜』中であつたので此の次にと云つて會はなかつた。數日後來訪、是非と云ふのでベッドから出て會つた。會ふと今困つて居るから金をくれと云ふ事だつた。あきれて仕舞つた。之が文學士で中學校の校長をやつた男だ。我が國の敎育界は根本的に建て直しをしなければ國危しと思つた。

就職戰術の先生

—聖書之眞理の會での感話—　好川增輔

私に取りまして先生は單に聖書の眞理の先生であるばかりでなく、私の就職戰術の先生でありました。私は帝大で先生から英語の經濟學を敎はりました。その時先生に對して何となしに尊敬と親しみを覺え、是非何かの機會を窺つて御宅を訪問したいと考へました。

私は學校を卒業する時、人の眞似をして住友を志願しました。當時私は住友の事は何も知りませんでしたので矢作博士の口頭試問には見事にやられました。その時の愚問が振つて居ります「住友銀行の預金は何程ありますか」。答「四千萬圓位であります」。博士「君資本金でさへその位あるよ」。「住友以外に何處かへ願書を出したか」。答「三菱その他へ出しました」。友人が後から之を批評して、君は落第だよ、第一住友銀行の預金位は知つて置かねば駄目だ、それから住友だけを希望したと答へた方がよかつたと云つて笑ひました。然し私はうそを云ふことは出來ませんでした。

その時私の頭にすぐ浮んだのは江原先生でありました先生は曾て住友に居られたそうだから、先生の御意見を伺ひ度いと思ひ、御宅を訪ねました。私が一番氣にした事は、若し住友の重役と面會した時、何故住友を希望したかと問はれたならば何と答へやうかと云ふ事でありました。當時何處でも何故當社を希望したかと聞かれ、貴社は資本金が多いからとか、業績がよいからと答へ、何故資本金が多いのがよいか、どうして業績が良い事がわかるかと追究されて困るものが多くありました。實際私達は何故その會社を志望するか、差程明瞭な考はありません。そこで先生に「若し重役からその事を聞かれたら何と云ひませうかと」聞きました。先生は、何の事はない「その時は江原が住友なら眞面目に安心して働けると云つたからだと答へ給へ」と云はれました。愈々重役との面會日が來ました。小倉現總理事から何故住友を希望したかと聞かれ、私はしめたと思つて先生の入智慧を拜借して答へました。そして遂に住友に入社致しました。之が先生は聖書の眞理の先生だけではなく、私には就職戰術の先生であるわけであります。

基督教講話會

場所　鎌倉由井ケ濱二丁目、キング商會（ラヂオ屋）別館
　　下馬より六地藏に至る中程右側

日時　毎日曜日午前十時より

講師　本社主筆　江原萬里
　　東大教授　矢內原忠雄
　　一高教授　三谷隆正
　　高校教授　山田幸三郎
　　（五十音順）

聽講料　毎回二十錢

江原萬里著（岩波版）

宗教と國家

エレミヤ記の研究

定價一・八〇　送料　一四

聖書的現代經濟觀

（獨立堂版）

定價一・二〇　送料　八

（以上聖書の眞理社取次）

原田美實著

我がガラテヤ書

（定價一二〇）

之は單なる註解書でない。著者自身の體得を以て書かれた書であり、全篇元氣橫溢して居る。「我が」と冠せる所以成る程と思はれる。

（名古屋市流川町一粒社發行）

金澤常雄著

パスカルの宗教思想

（定價一〇〇）

著者は多年パスカルを研究し、その靈性を培ひ來た者である。カトリックたるパスカルが著者の如き熱烈眞摯なる無教會主義者に相通ずるところあるを見れば基督教は教義でなく永遠の眞理である事がわかる

（九段坂向山堂發行）

聖書の眞理定價（送料共）

一部	二十錢	
半年（六部）	一圓十錢	
一年（十二部）	二圓十錢	
海外一年	二圓六十錢	

拂込は聖書の眞理社（振替東京六三三七五番）へ。獨立堂にてもよし

昭和八年四月廿八日納本
昭和八年五月一日發行

神奈川縣鎌倉町扇ケ谷三四三
編輯印刷兼發行人　江原萬里

東京市澁谷區向山町九七
發行所　聖書の眞理社

東京市神田區三河町三ノ四
印刷所　今井印刷所

東京市淀橋區百人町二丁目二五四
發賣所　獨立堂書房
振替東京一九六六番

（昭和三年二月十六日　第三種郵便物認可）

【本誌定價二十錢】